

令和4年2月9日実施 留萌地域の未来創造シンポジウム

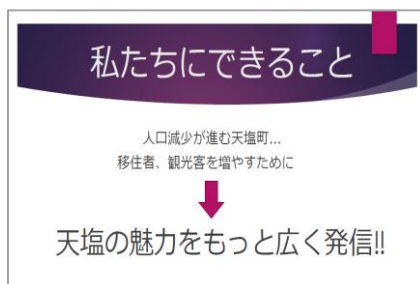
● 各学校の事例発表

天塩町立天塩中学校 テーマ「天塩町の魅力をPR～15歳から見た天塩～」

天塩町立天塩中学校では、地域創生の視点による教育活動を展開し、今年度は天塩町の魅力を広く普及できるよう、以下の取組を行った。

- ・ **第1学年による地域の産業への理解** 天塩町に基盤をおく企業等について、調べ学習を行い、地域の産業に対する理解を深めた。
- ・ **第2学年による地域のPR活動** 地域のよさや地域の産業を活性化できるように天塩町の特徴がわかるグッズを作成し、地域に対して、PR活動を行った。
- ・ **第3学年による地域外へのPR活動** 3年間の学習の成果を踏まえ、地域の特徴やよさが分かるポスターを作成し、町外の施設に広く普及啓発する。

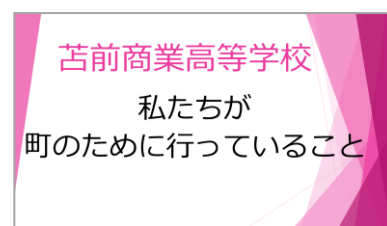
特にPRする町の特徴として、天塩町の自然や景観の美しさが伝わるよう工夫した。そして、道教委ホームページに掲載し、道民に広く伝わるように取組を進めた。



北海道苫前商業高等学校 テーマ「私たちが町のために行っていること」

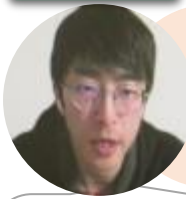
苫前商業高校は、苫前町唯一の高校であり、商業科の特性を活かし、町の活性化に向けた様々な取組を行っている。

- ・ **ボランティア活動** 学校行事として、町内施設の清掃、高齢者住宅の除雪を実施した。また、ボランティアとして、公民館のイベントに参加した。ボランティアでのつながりを通じて、漁業・農業に携わるアルバイトを紹介していただいた。
- ・ **赤い羽根募金・緑の募金** 生徒・先生方から集めた募金を社会福祉協議会に寄付し、寄付金は地域活動や花壇整備に使用した。
- ・ **カルタ大会/行灯行列** 町の伝統行事あるカルタ大会を、学年対応で実施した。また、町を元気にしようと、約20年ぶりに学校祭の行灯行列を復活し、例年以上に町内の参加者を集めることに成功した。
- ・ **テレビ出演** NHK「北海道スタジアム」に参加し、町の魅力や本校の取組を紹介した。次年度はラジオへの出演も計画している。
- ・ **未来ビジョンミーティング/自転車ツーリング** 高校生と町の大人たちがメンバーとなっている、地元を活性化させる目的の「未来ビジョンミーティング」で、3日間で220kmを走破する「自転車ツーリング」を企画し実施した。その後、産官学が連携し、観光客誘致のためのサイクルラックを製作し、町の各所に配置した。
- ・ **苫カフェ** 役場に町内でのカフェ開催を提案し実現した。生徒が開発した商品や生徒自らが飲み物を販売し、完売した。



● シンポジウムの内容

自己紹介



増毛町
寺沢 響太 氏

留萌高校卒業生。地元ラジオ局職員から、現在は果樹園で第一次産業に携わる傍ら、PRクリエイターとして活動している。高校生を含むチームをつくり、動画編集のノウハウを伝えながら思い出を映像に残す活動を行っている。



厚真町
齊藤 烈 氏

タイの日本人学校での教員、オーストラリアでのワーキングホリデー、社会教育施設指導員等の仕事を経て、現在は厚真町の教育委員会に所属している。胆振東部地震の際に、避難所での子どもの居場所づくりなどに貢献した。



天塩町
横山 雄一 氏

元システムエンジニア。バイクで日本一周をしているときに北海道の魅力を知り、地域おこし協力隊として天塩町へ移住した。稚内に向かうライダーにしじみ汁を提供するなど、自身の経験を活かした事業を展開している。

現在行っている活動の魅力とその魅力

【寺沢氏】地域で何ができるかを考えること。観光について言えば、内部から外部へ発信することが重要だと思う。

【齊藤氏】厚真町は、何もなければ、町中みんなが知り合いで温かい。

目の前で困っている一人を助けられれば、おのずと町の幸せにつながると思う。小さい町だからこそできる。

【横山氏】大晦日に、宗谷へバイクで向かう人にしじみ汁を振る舞った。ありがとうと言われたときにやりがいを感じた。

夏場にも何かできればと考えている。

それぞれの地域に初めて来た頃と現在を比較し、気持ちの変化や苦労した点

【寺沢氏】高校卒業後、地元の会社に就職と転職したが、自分の意見が通らないことが多かった。

今では、副業として「留萌でこういう動画を撮りたい」という思いを実行できている実感がある。

【齊藤氏】最初は完全によそ者だった。首からけん玉をぶら下げた「不審者」と思われたこともある。1週間は168時間、仕事をしている40時間を引いた自由な168時間を厚真町のためにどのように使うかを考えていた。

例えば、地元の食品を買い続ける。5年間そういう暮らしを続け、地域に生かされていると実感するようになった。

【横山氏】天塩町にきてまだ1年ほど、はじめはよそ者という感じで商工会の取材も非常にぎこちなく、苦労した。

今では、食事に呼んでもらったり野菜をもらったり交流できており、地域の一員となりつつあると感じている。

地域への愛着、誇りをもつとは

【寺沢氏】自分は地元嫌いからスタートしたが、ふくしまボランティアキッズに参加して頑張る大人たちを知り、見方が変わった。自分でアクションを起こすことが、田舎だから特に大切。

【齊藤氏】愛着とは、住んでいる場所に関係なく続いていく関係性のことであり、誇りとは客観的な評価と切り離せないもの。

【横山氏】住んでいるときには気付けなくても、地元から離れて思い返すといいところだと思うこと、それが地元を誇りをもっているということ。

今後の夢について

もっと地元の人と
関わりたい。

寺沢 響太 氏

震災や新型コロナウイルス感染症等による息苦しい生活があるけれど、いつかこれらを乗り越えた経験を仲間と笑って話せるように、そう思える日が来るようになること。

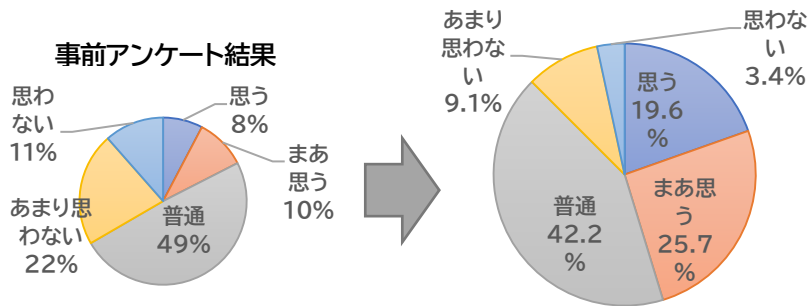
齊藤 烈 氏

天塩町は唯一無二の景色があるところ。新しい価値観を提供したい。

横山 雄一 氏

● 各学校で実施したワークシートまとめ(回収 301 枚)

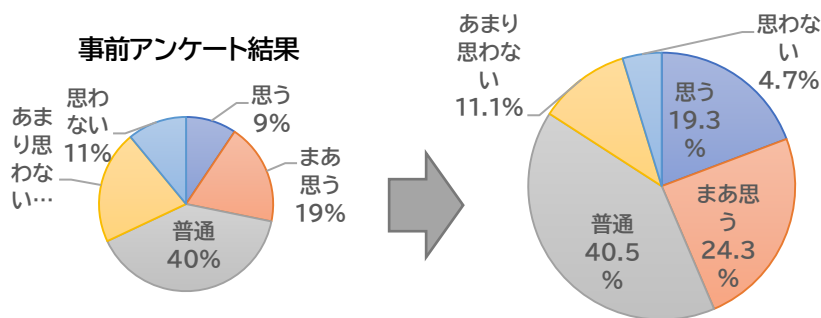
現在住んでいる留萌管内の地域に「誇り」を感じていますか



「地域に誇りをもつこと」についてどのように考えが変わりましたか

- ・地元を誇りをもつことは自分のモチベーションにつながると思った。
- ・留萌を今以上に知りたいと思った。
- ・地元が嫌いで誇りなんか無いと思っていましたが、あるかもしれないと思えた。
- ・今、あまり誇りは感じないけれど、自分が高校生のうちにアクションを起こしたいと思った。
- ・出身にかかわらず地域に誇りがもてるんだなと思った。

あなたは、将来留萌地域に貢献したいと思いますか



今住んでいる地域の良さや誇りは何ですか

- ・人口が少ないからこそ団結力がある。
- ・町を盛り上げようとしている人たちがたくさんいる。
- ・人口が少ない故に個人のニーズが尊重されやすい住みよい町。
- ・6次産業を頑張っている。
- ・誘惑がないので、勉強やスポーツに集中できる。

グラフによると、シンポジウム後には地域への「誇り」や「貢献」について関心が増した一方、「ふつう」と答えた生徒の割合はほとんど変わらなかった。ワークシートの記入欄を見ると、「今まで考えたことがなかった」、「自分ができることはないと思う」など、まだ自分事として考えられていないコメントが多い一方、右記のように考えを具体化できている生徒もいた。

また、各学校の事例発表を聞いて、「同じような取組がしたいと思った」など他校の実践がよい刺激となっていた。

持続可能な地域のために、自分ができること、してみたいことは何ですか

- ・留萌市の都市計画の作成に参加したい。
- ・しじみを活用した取組
- ・天塩のような動画やポスターを作りたい。
- ・苦カフェのようなことがしたい。
- ・マイクロプラスチック環境調査や水産クラブを通じて他の地域に天売を知ってもらう。

● パネリストからのコメント

天塩町地域おこし協力隊 横山 雄一 氏

天塩町地域おこし協力隊の横山です。
2月に行われたシンポジウムから1ヶ月が経ちましたが如何お過ごしでしょうか。
アンケートなどを見させて頂き、みなさんの地域への意識を少しでも変える一助となれたことを嬉しく思います。
さて2年生の皆さんはもうすぐ3年生となり、進学や就職に向けて動き出す事でしょう。
多くの生徒は地域外で進学や就職をすることになるかと思えます。
言い換えれば”この地域で暮らすのは今年で最後になるかもしれない”ということです。
今年1年間自分の地域のことを少しでも知り、この地域の好きなどところを見つけてから旅立って欲しいなと思います。
ひとまずは残り1年間の高校生活を全力で楽しんで！！

厚真町教育委員会 斉藤 烈 氏

今回は皆さんと直接話すことはできませんでしたが、わたし自身、とても素敵な出会いとなりました。
まずは、なにをやるにも「出会う」ということが一番大事です。それも、「自分にとって都合がよい人」「気が合う人」だけではなく、「自分とは考え方がまったく違う人」「自分とはちょっと気が合わないような人」にも出会うことがきっと自分の人生観や価値観を広げることに繋がります。それは、人だけではなく、もの、こと、情報にも同じことが言えます。人生において知らないものはそもそも選択肢に入ってきません。「知る」ためにはたくさんの方の出会いが必要です。今回こうして出会えたことは必ずいつか自分に返ってくるはずで。まずは「やりたい」を口に出してみる。そして、「やりたい！」を「やりたい」で終わらせるのではなくやってみること。そんなことから始めてみましょう。最後に好きな歌詞を送ります。

何度でも立ち止まって
また何度でも走り始めればいい
必要なのは走り続けることじゃない
走り始め続けることだ
(オールドルーキー by 竹原ピストル)

PRクリエイター 寺沢 響太 氏

動画化しますので、乞うご期待！！
Terasan たらさん



3カ年計画の留萌教育局「オロロンリレーションプロジェクト」は、本年が2年目となりました。
最終年度となる令和4年度も、学校と地域の連携推進の一助となるよう、引き続き取り組んで参ります。